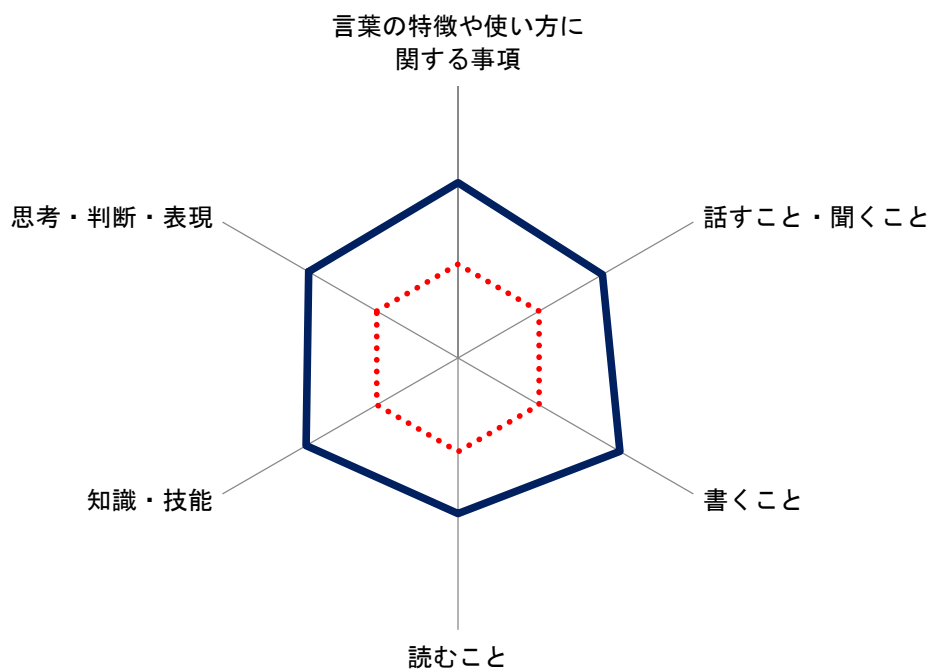


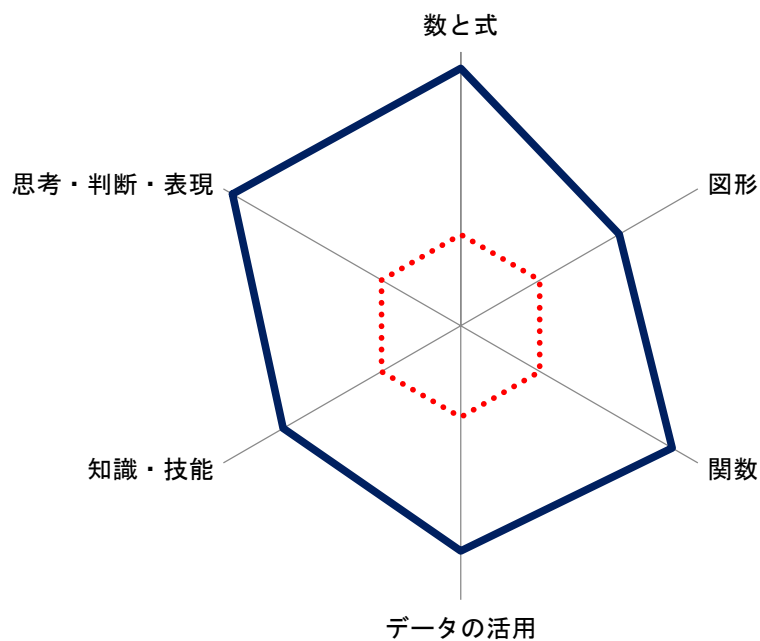
○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

— 松山西
..... 全国平均



【数学】

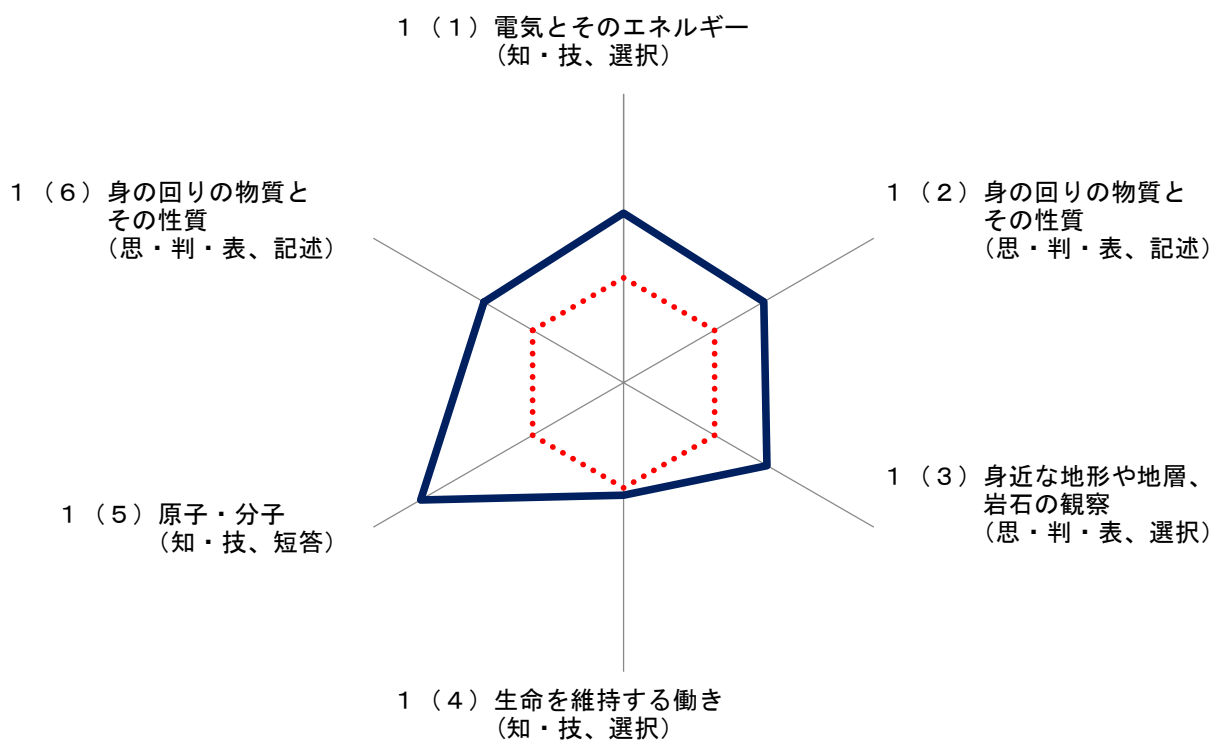


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

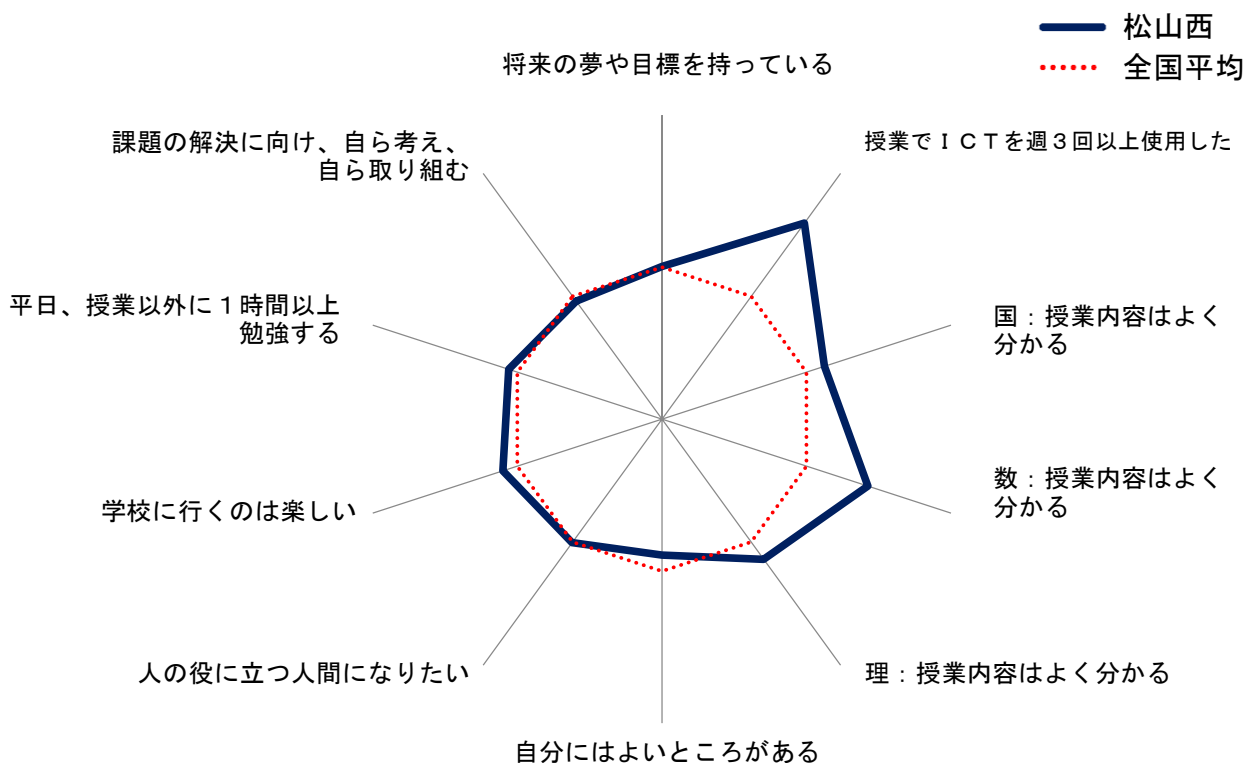
【理科】

※全ての生徒が解答した共通公開問題(6問)について、問題ごとに
全国の平均正答率と県や市町の平均正答率との差を比較したもの

— 松山西
..... 全国平均



○ 生徒質問調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

【国語】

本校の平均正答率は71%であり、全国平均(54.3%)を大きく上回っています。中等教育学校の特性を生かし、発展的な学習を促す指導は重要ですが、同時に基礎基本の定着について、個別指導も含め力を入れる必要があります。

正答率における全国平均との差は、「知識・技能」(本校65.5%・全国48.1%)と「思考・判断・表現」(本校72.1%・全国55.3%)のいずれも17ポイント程度上回っています。ただ、「思考・判断・表現」においては、「書くこと」「読むこと」の領域は全国平均を大きく上回っているものの、「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均との差が小さくなっています。問題の内容によっても違いは生じますが、この点について、問題別に分析してみます。

出題の趣旨別に見たところ、全国との正答率の差が、「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるか」は29.3ポイント(本校92.6%・全国63.3%)、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるか」は24.5ポイント(本校81.8%・全国57.3%)であり、どちらも全国の前正答率を大きく上回っています。また、「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるか」は、本校の前正答率自体が高い水準を示しています(本校98.0%・全国89.9%)。

一方で「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるか」は全国平均との差が8.5ポイント(本校46.6%・全国38.1%)と、一番小さくなっており、正答率自体も低くなっています。

前者の3つは「書くこと」「読むこと」に分類され、後者は「話すこと・聞くこと」に分類されます。したがって、「的確に書き表す力」や「確かに読解する力」は順調に伸びていますが、それを実際のコミュニケーションの場で生かすという「言葉の実践力」については、今まで以上に身に付けさせていく必要があることが分かります。同じ集団で長く学習を継続できるという本校の特徴は、メリットですが「慣れ」にもつながってしまいます。緊張感のある議論の場や校外の方々への発信など、外部との交流の機会を積極的に設定し、さらなる国語力の伸長に努めます。

【数学】

本校の平均正答率は78%であり、全国平均48.3%や愛媛県平均46%を大きく上回っており、良好な結果となっています。領域別では、「数と式」において36.4ポイント、「図形」において20.1ポイント、「関数」において33.5ポイント、「データの活用」において29.3ポイント高い結果となっています。評価の観点においても、「知識・技能」において24.9ポイント、「思考・判断・表現」において37.7ポイント高い成績となっています。例年と比較しても同程度の高い成績ですが、「関数」と「データの活用」において若干の上昇、「図形」において若干の低下が見られます。

今年度の課題としては、「図形」における証明の記述について、他の分野と比較すると正答率が高くない点です。平行四辺形に関する証明において、複数の条件が加わったときに具体的な図をかく整理する力が高くないように感じます。図形における語句の意味を問う基本問題の正答率も高くないことから、「図形」の分野においては、授業を通して既習事項を確認し、演習時間を多く取ることにによって数学的な見方や考え方を定着させていきたいと考えています。

生徒質問調査においては「授業内容はよくわかる」と答える生徒が全国平均よりも8.5%上回っています。現在本校では「日々の課題」や「週末課題」といった取組をしています。授業で学習したことを家庭学習において振り返る、一連のサイクルを通して基礎力の更なる醸成を目指していきます。また、前期課程においては「超日々の課題」と題して少し難易度の高い問題や、過去に学習した内容を定期的に振り返ることのできる問題を希望者に課すことで実力養成を図っています。今後もこの取組を継続しつつも、生徒が自主的に学習に取り組むことができる環境づくりを整えていきます。

【理科】

平均 I R T スコアを比較すると、本校は592であり、全国（公立）503を上回っています。項目ごとに全国平均と比較すると、「1（1）電気とそのエネルギー」では+12.3ポイント、「1（2）身の回りの物質とその性質」では+10.8ポイント、「1（3）身近な地形や地層、岩石の観察」では+11.5ポイント、「1（5）原子・分子」では+24.6ポイント、「1（6）身の回りの物質とその性質」では+10.7ポイントとなっています。そのため、普段の授業で取り組んでいる観察・実験、授業の予習・復習、定期考査のための学習などについて、一定の成果があると考えています。また、教員自作の演習プリントなどを通して、学習内容が定着していると考えています。「1（4）生命を維持する働き」については、全国平均+1.4ポイントにとどまり、他の分野に比べて正答率が低くなっています。今後、「1（4）生命を維持する働き」の授業内容を見直し、観察・実験の実施状況、単元別テストの状況などを検証し授業改善を図りたいと考えています。また、理科に対する興味・関心を喚起する内容を充実することや、日常生活との関連付けなどを通して、論理的な思考力、自然環境の保全に寄与する態度の醸成に取り組むなど、これらを踏まえた問題演習、課題の作成を徹底し、実力を育み、学習状況の改善につなげていきます。

【生徒質問調査】

本校生徒は、おおむね基本的な生活習慣が確立されており、一日当たりの勉強時間や読書時間、新聞を読む習慣等に関する質問で全国平均より高い結果が出ていることから、望ましい家庭生活を送っている様子がうかがえます。特に休日の勉強時間を確保し、余暇を活用して計画的に学びを進められています。「人の役に立ちたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」「将来の夢や目標を持っている」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均より高い結果となっています。学校生活の充実だけでなく、周囲との関係や社会全体へ視野を広げて生活している生徒が多いことが分かります。今後も体験的活動や話し合い活動を充実させる中で視野を広げ、後期課程においても自己肯定感の更なる伸長を図るとともに、地域の中心となって主体的に活動する生徒の育成に努めます。

学習面では、国語、数学、理科ともに、「授業が好き」「授業が分かりやすい」と答える生徒が多く、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。ほとんどの生徒が、一人一人の学習への取組について、「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と答えており、課題意識を持って学習の進め方を調整できていることが分かります。また、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と肯定的な回答が全国平均より9ポイント以上上回っています。学習指導要領で求められている、多様な意見や他者を尊重し多様な人々と協働して未来を切り拓き、変化を乗り越える資質が育っていると感じています。ICTの活用も進み、授業での実践事例も蓄積されてきました。引き続き、集団や個に応じた効果的な活用方法を研究していきます。